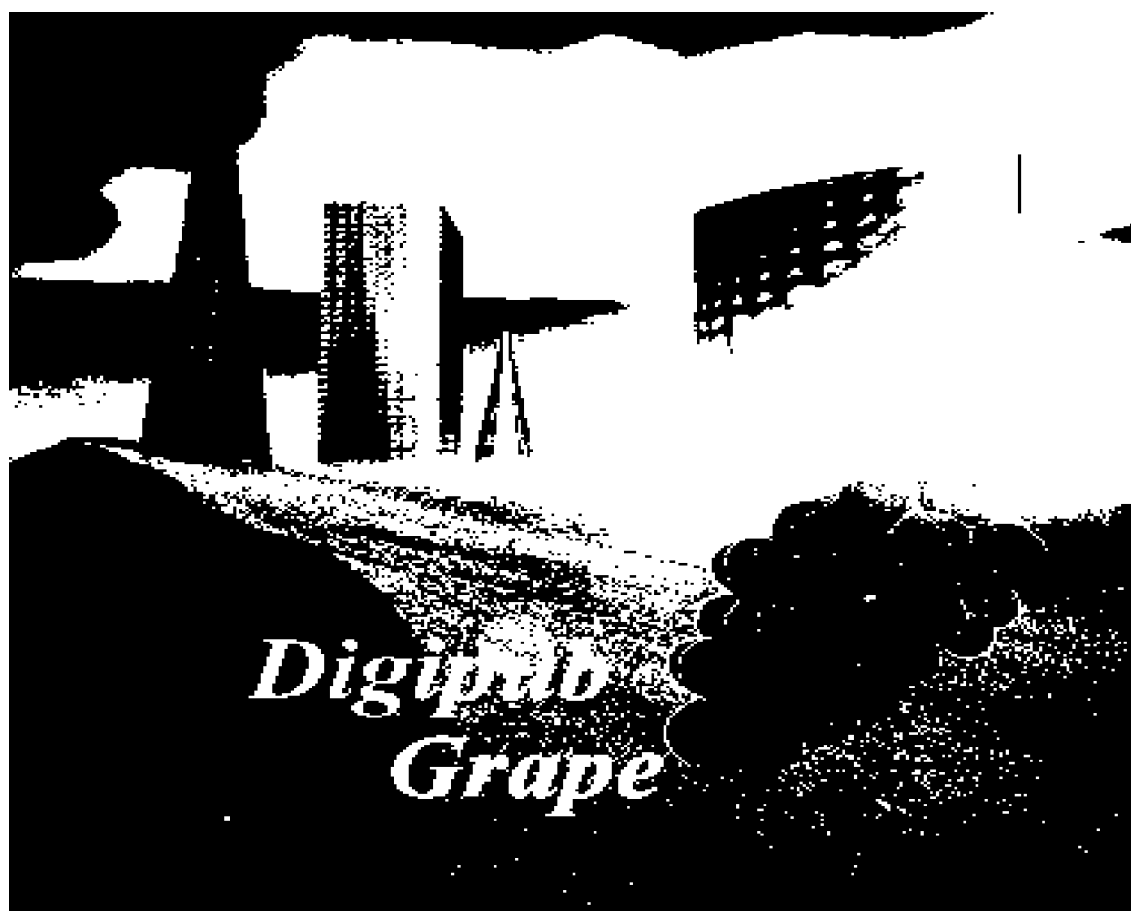


Grape Universal

ユーザーズマニュアル

Version 1.0



目次

1	Grape とは	6
1.1	Grape とは	7
1.1.1	概要	8
1.2	Grape Universal の新機能	12
1.3	エリアス	13
1.3.1	概要	14
1.4	メニュー言語	17
1.4.1	概要	18
1.5	利用者レベル	20
1.5.1	概要	21
1.6	ソース	22
1.6.1	概要	23
1.7	文字コード	23
1.7.1	概要	25
2	Grape の起動	25
2.1	初期画面	27
2.2	メインメニューの選択	28
2.3	ツールバー	29
2.3.1	概要	30
3	書庫	30
3.1	書庫	33
3.1.1	書庫の概要	34
4	表示	36
4.1	表示	39
4.1.1	概要	40

5	分析	41
5.1	分析	45
5.1.1	概要	46
6	ログ	48
6.1	ログ	51
6.1.1	概要	52
7	マスター管理	53
7.1	マスター管理	55
7.1.1	概要	56
8	補足 (Access 97 を使用する場合)	58
8.1	Access97 用の設定方法	61
8.1.1	BDE の起動	62
8.1.2	ドライバの選択	63
8.1.3	Native ドライバの選択	63
8.1.4	MSACCESS ドライバの選択	64
9	その他	64
9.1	その他	67
9.1.1	注意事項	68
9.1.2	更新履歴	68
9.2	Grape シリーズのご紹介	68
9.3	既知の問題	69

目 次

1.1	概要	8
1.2	他のブラウザとの違い	9
1.3	学校	10
1.4	企業	11
1.5	データベースの選択	14
1.6	エリアスダイアログの表示	15
1.7	エリアスの選択	16
1.8	エリアスの確定	16
1.9	エリアスダイアログボックスの終了	17
1.10	サブメニューの選択	19
1.11	英語の選択	19
1.12	英語メニューの表示	20
1.13	サブメニューの選択	21
1.14	子供（0）の選択	22
1.15	ひらがなメニュー	23
1.16	サブメニューの選択	24
1.17	ソースウィンドウの表示	24
1.18	文字コードの選択	25
2.1		28
2.2	メインメニューの選択	29
2.3	概要	31
3.1	書庫の概要	35
3.2	日付時間順	35
3.3	タイトル順	36
3.4	目的別	37
3.5	グループ別	37
3.6	アクセス数順	38
3.7	アドレス順	38

4.1	書庫から選択	40
4.2	ホームページを表示	41
4.3	書庫へ切り替え	42
4.4	アクセス数順から選択	42
4.5	アクセス数順から選択して表示	43
5.1	頻度分析	47
5.2	曜日別アクセス	47
5.3	日付別アクセス時間	48
5.4	ユーザ別アクセス数	49
6.1	概要	52
6.2	ログのオン・オフ	53
6.3	ログリストからのアクセス	54
7.1	概要	56
7.2	書庫	57
7.3	巡回	58
7.4	転送用	59
8.1	BDE の起動	62
8.2	ドライバの選択	63
8.3	Native ドライバの選択	64
8.4	MSACCESS ドライバの選択	65

第 1 章

*Grape*とは

1.1 Grapeとは

1.1.1 概要

DigiPub Grapeは通常のブラウザにデータベース機能を付加したブラウザです。DigiPub Grapeは、いわゆるお気に入り、ブックマークサイトを様々な観点から分類整理し、即座にアクセスしたいホームページなどを検索することができます。

DigiPub Grapeのデータベースは、Paradoxのファイル形式を標準としていますが、Microsoft Accessのファイル形式にも対応しています。したがって、Accessを利用できるユーザであれば独自に加工・出力することも簡単にできます。

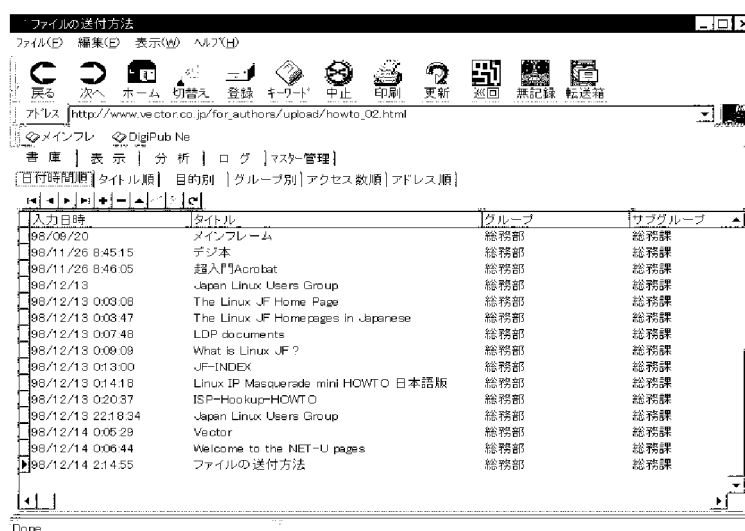
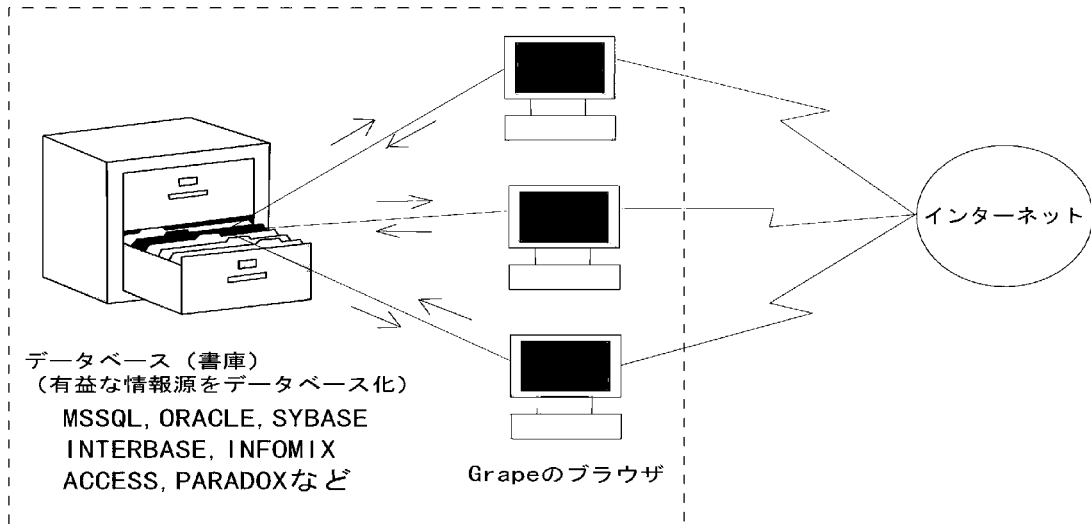


図 1.1: 概要

動作環境

DigiPub GrapeはWindows98上で動作します（但し、インターネット・エクスプローラ4.0以降をインストールしているWindows95上でも稼働します）。

Grape (グレープ) の場合



既存のブラウザの場合

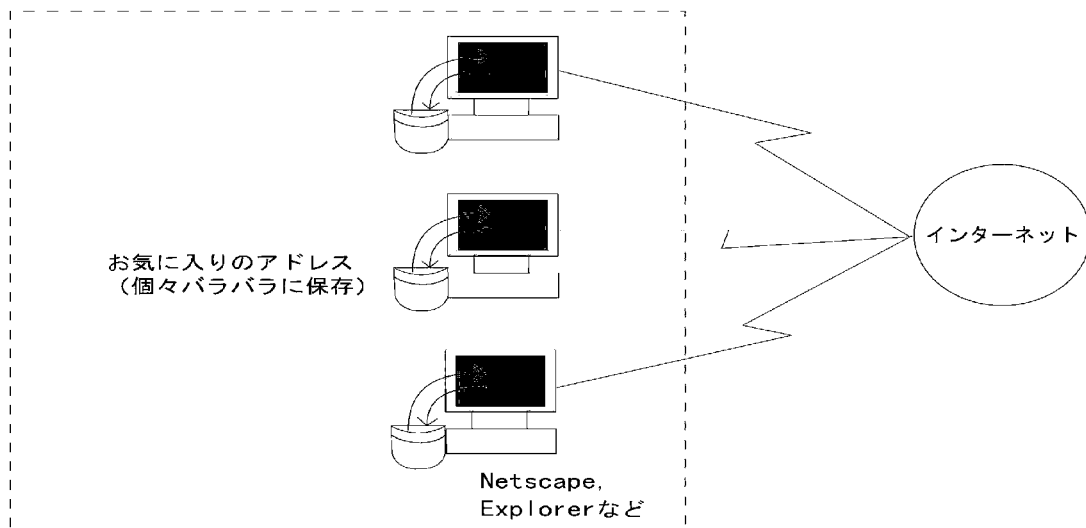
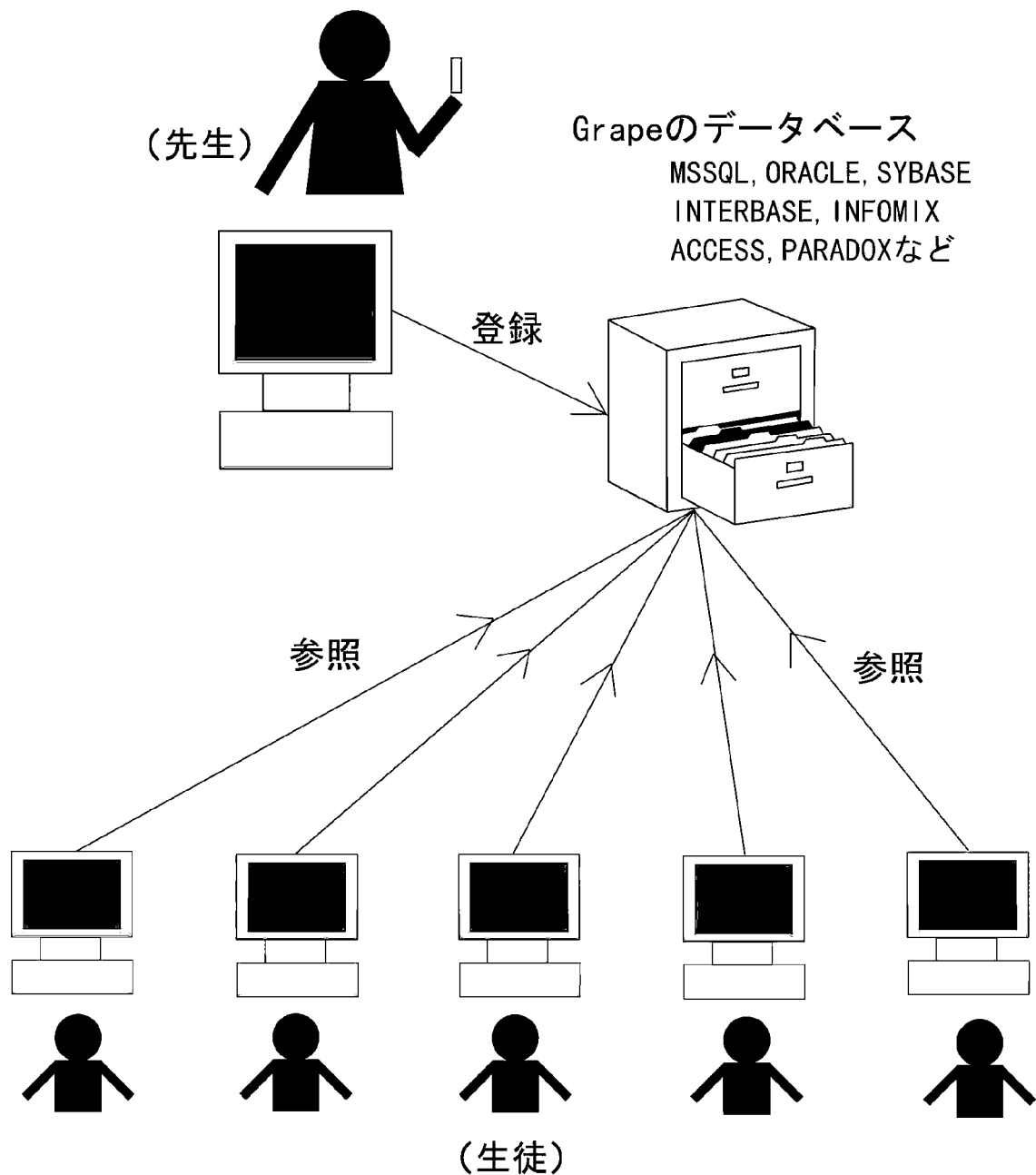


図 1.2: 他のブラウザとの違い

利用法 1 学校の場合

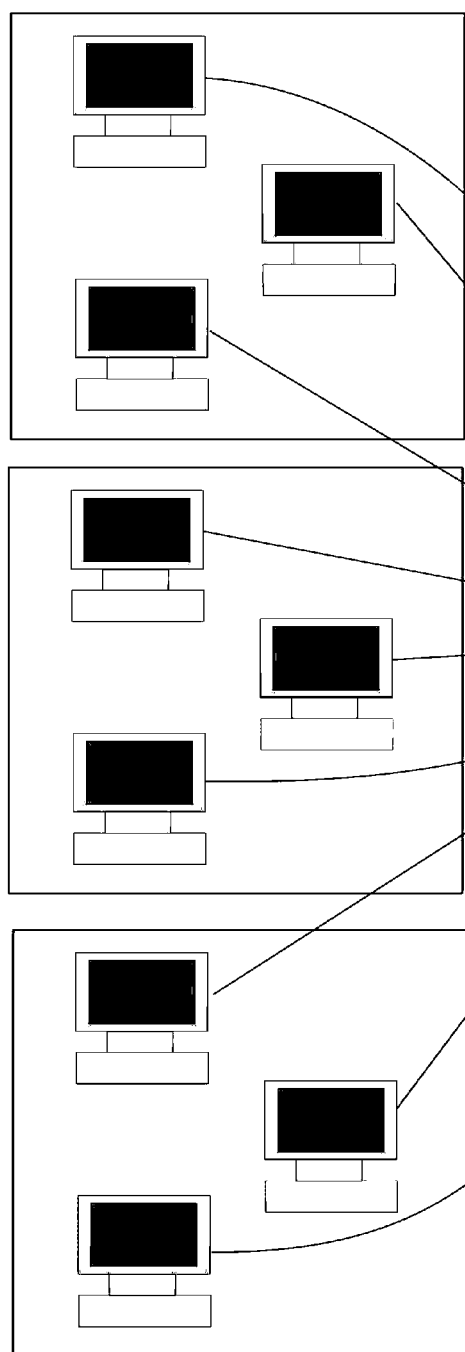


同じ手順で同一のページを参照できる

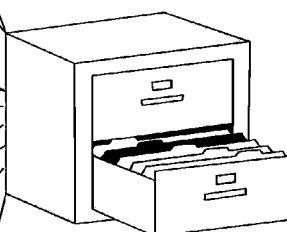
図 1.3: 学校

利用法 2 企業の場合

各課（または系列会社）



特定の会社にとっての
有意義な情報源を
迅速に蓄積できる。



Grapeのデータベース
MSSQL, ORACLE, SYBASE
INTERBASE, INFOMIX
ACCESS, PARADOXなど

図 1.4: 企業

著作権

本ソフトの現バージョンは、フリーソフトです。但し著作権は放棄していません。

1.2 *Grape Universal*の新機能

Grape Universal は、Grape バージョン 0.9 に比べ、大幅に機能がアップしました。以下はその主な内容です。

- データベースの**エリアス**（別名）選択が可能になった。
- メニュー項目が **10カ国語対応**になった¹。
- 利用者のレベル（大人、**小学生**など）を設定することが可能になった。これにより、メニューを小学生低学年向けに**ひらがな**表示することも可能になった。
- **ソース表示**が可能になった。
- Grape で表示されるページの**文字コード**を選択できるようになった。

¹但し、一部対応していないものもあります

1.3 エリアス

1.3.1 概要

Grape Universal では、データベースのエリアス²を使用することができるようになりました。エリアスを使用することにより、データベースを変更したり、移動したりした場合でも、わずかな修正で対応できるようになります。また、各種のデータベースの設定を予め行うことができるので、操作している段階でデータベースの違いを意識する必要がなくなります。

データベースの選択

データベースファイルを開くには、メインメニューの [ファイル] から [データベースを開く] を選択し、エリアスのダイアログボックスを表示します。

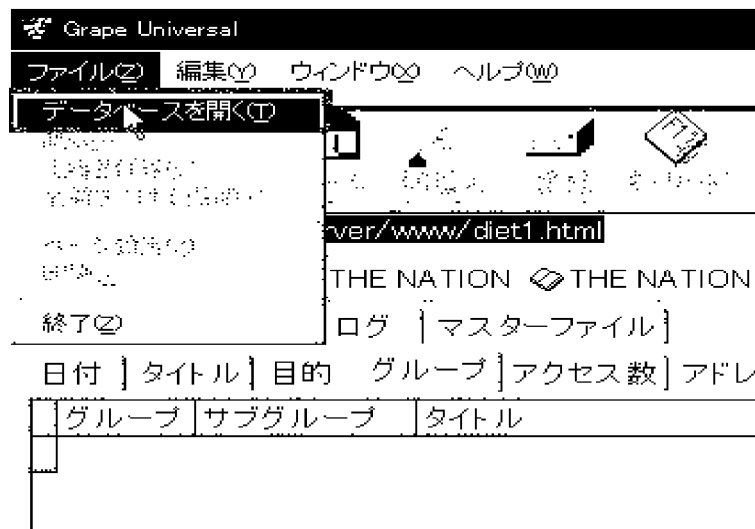


図 1.5: データベースの選択

²エリアスとは、「別名」を意味します。

エリアスダイアログの表示

このダイアログボックスは、データベースのファイル名を直接選択することも、またエリアスで選択することもできます。下段には選択可能なデータベースのエリアス名が表示されます。ファイル名で選択できるデータベースは、Paradox、Access、Interbase の3種類です。但し、Interbase については別途専用のドライバが必要です。これは Grape Universal には含まれていません。Interbase や Oracle などを利用されたい方は、Grape Professional または Grape Enterprise をご利用下さい。

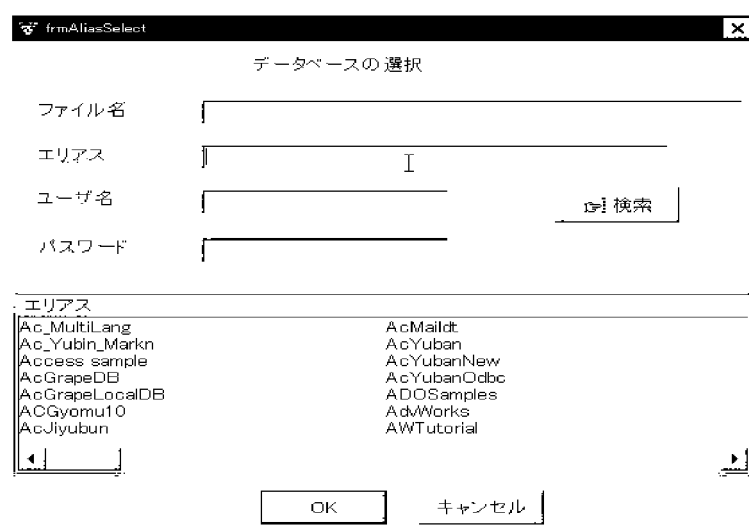


図 1.6: エリアスダイアログの表示

エリアスの選択

エリアスで選択する場合には、該当するエリアスをダブルクリックします。ここではまず Grape Universal インストール時に設定されたサンプルデータベースを開きます。このデータベースのエリアスは、**GrapeLocalDb** です。

エリアスの確定

GrapeLocalDb をダブルクリックすると、上段のエリアス覧にその名前が表示されます。

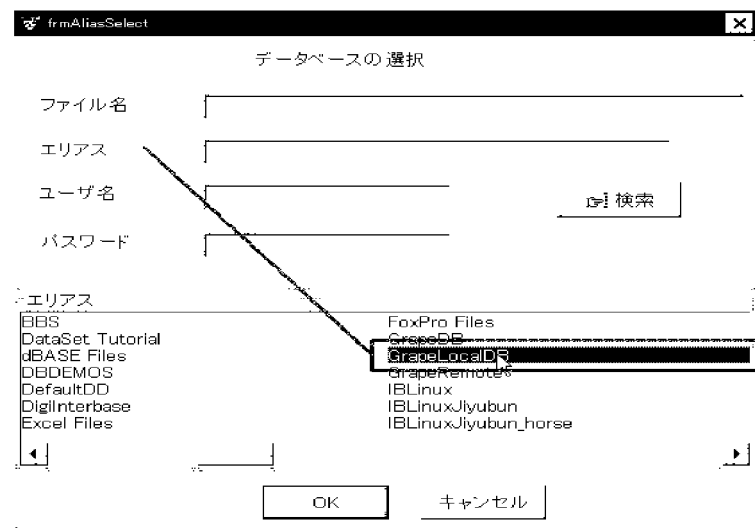


図 1.7: エリアスの選択

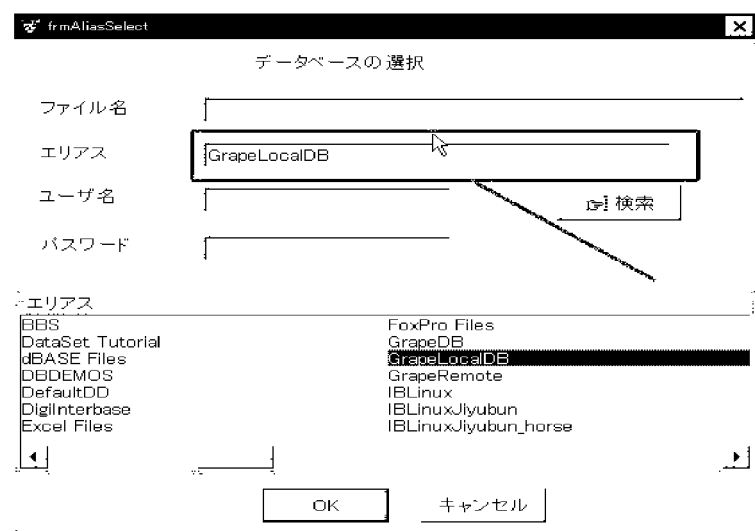


図 1.8: エリアスの確定

エリアスダイアログボックスの終了

このデータベースには、初期設定としてユーザ名、パスワードが設定されていません。ユーザ名、パスワードは空白のまま、[OK] ボタンをクリックします。³

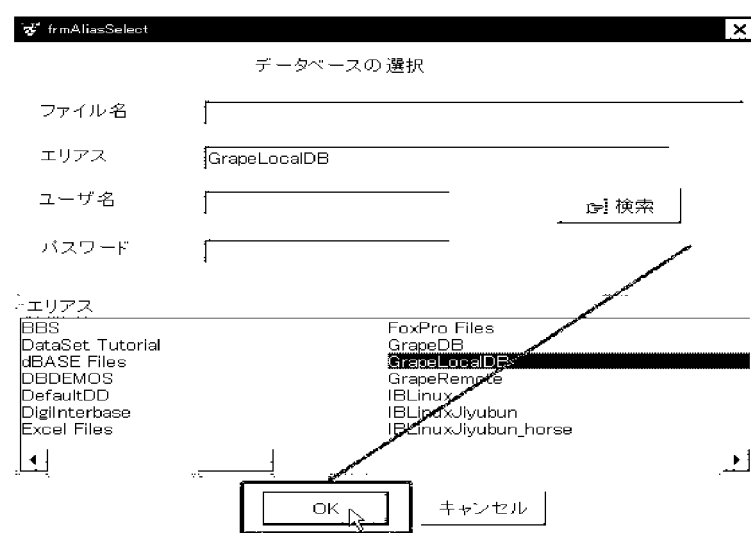


図 1.9: エリアスダイアログボックスの終了

³パスワードが設定されているデータベースを選択する場合には、ユーザ名、パスワードを設定する必要があります。

1.4 メニュー言語

1.4.1 概要

Grape Universal は、日本語ばかりでなく、英語、フランス語ほか 10 カ国語に対応しています⁴。Grape Universal が対応している言語は以下の通りです。

- 日本語
- 中国語（繁体）
- 中国語（簡体）
- ハンダ語
- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- スペイン語
- イタリア語
- ポルトガル語

サブメニューの選択

Grape Universal のメニュー表示言語を切り替えるためには、メインメニューの **ウィンドウ** から **メニュー言語** を選択し、右側に表示される言語一覧の中から表示したい言語を選択します。

英語の選択

例えば、言語一覧の中から **英語** を選択してみます。

⁴言語によっては、メニューの一部が英語表記のままのものも存在します。



図 1.10: サブメニューの選択

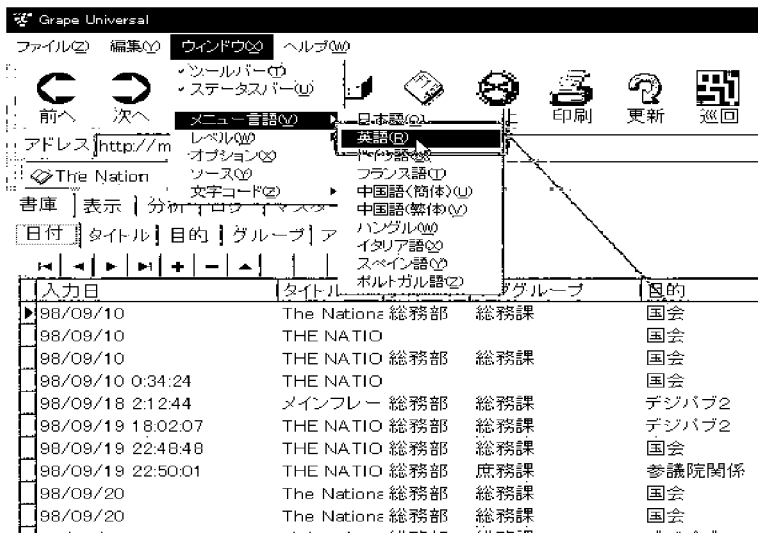


図 1.11: 英語の選択

英語メニューの表示

すると、Grape Universal の各メニュー項目が**英語** 表記に変わります。

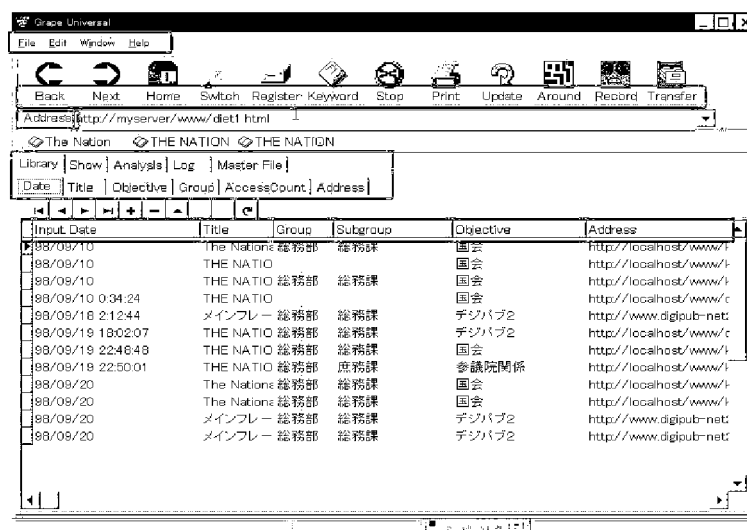


図 1.12: 英語メニューの表示

1.5 利用者レベル

1.5.1 概要

Grape Universal では、小学生低学年の生徒たちでも、容易にインターネットに馴染めるように、メニュー表記をひらがななどにすることが可能になりました。これにより、インターネットを取り入れた学校教育などに一層活用しやすい環境を整えることができます。

サブメニューの選択

Grape Universal のユーザレベルを切り替えるためには、メインメニューの**ウィンドウ** から**レベル** を選択し、右側に表示されるレベル一覧の中からユーザのレベルを選択します。



図 1.13: サブメニューの選択

子供（0）の選択

例えば、ユーザのレベルを小学生低学年とします。この場合には、サブメニューから**子供（0）** をクリックします。



図 1.14: 子供（0）の選択

ひらがなメニュー

例えば、ユーザのレベルを小学生低学年とします。この場合には、サブメニューから**子供（0）** をクリックします。すると各メニュー項目が**ひらがな** ないし**カタカナ** で表記された画面に変わります。

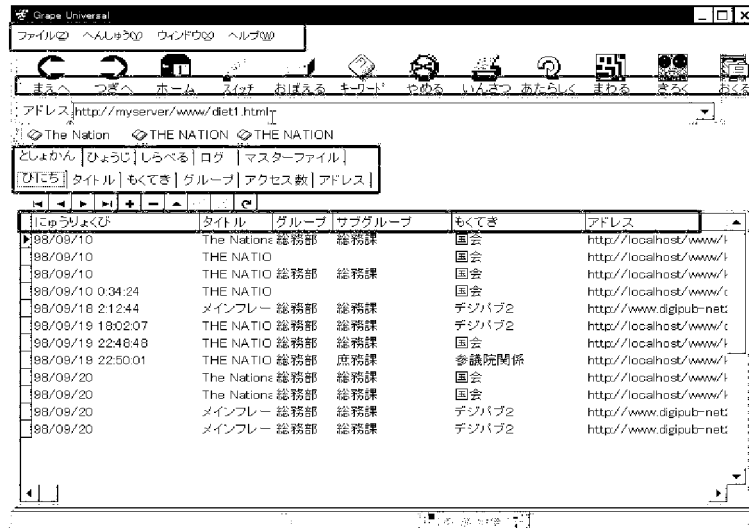


図 1.15: ひらがなメニュー

1.6 ソース

1.6.1 概要

Grape Universal では、バージョン 0.9 で備わっていなかった、ソース⁵ を表示する機能が追加されました。

サブメニューの選択

Grape Universal で表示中のページのソースを表示するためには、メニューの**ウィンドウ** から**ソース** を選択します。

ソースウィンドウの表示

画面上にサブウィンドウが開かれ、ソースが表示されます。

⁵html ファイルの内容

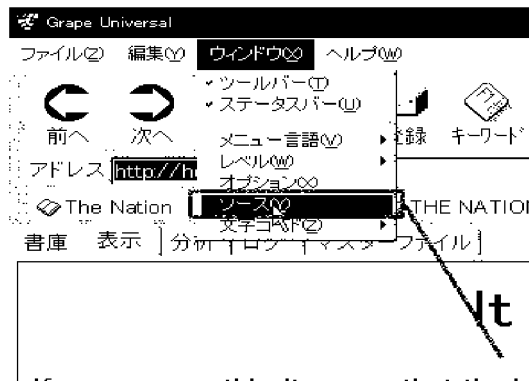


図 1.16: サブメニューの選択

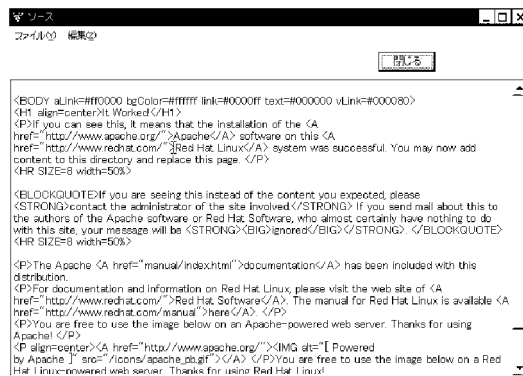


図 1.17: ソースウィンドウの表示

1.7 文字コード

Grape Universal で表示中のページのソースを表示するためには、メニューの**ウィンドウ** から**文字コード** を選択します。

1.7.1 概要

Grape Universal では、バージョン 0.9 で備わっていなかった、文字コード変更機能が追加されました。これにより、フランス語、ドイツ語あるいは中国語、韓国語などを表示することが可能になりました⁶。

文字コードの選択

Grape Universal で表示中のページのソースを表示するためには、メニューの**ウィンドウ** から**文字コード** を選択します。

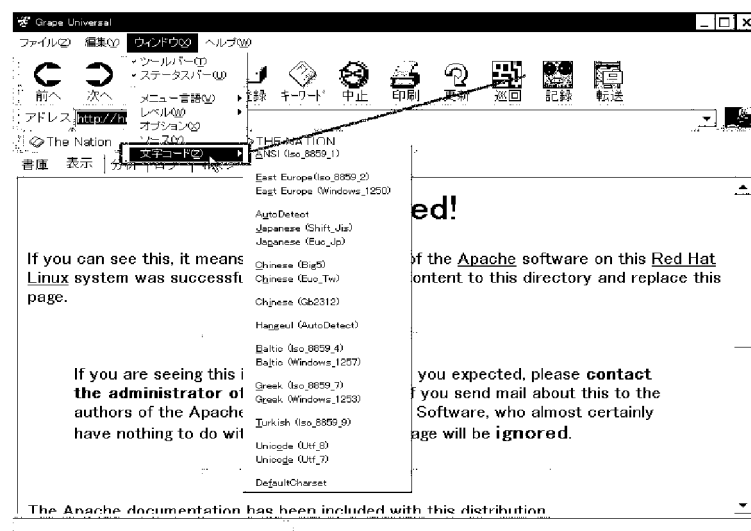


図 1.18: 文字コードの選択

⁶但し、中国語、韓国語については、それぞれ Windows のシステムにこれらのフォントが組み込まれている必要があります

第 2 章

*Grape*の起動

2.1 初期画面

Grape は、通常のブラウザソフトと異なり、**お気に入り**サイトに関するデータを独立した**データベース**で管理します。このデータベースは、Grape 自体に組み込まれている Paradox 互換のもののほか、Access や Oracle などのデータベースを利用することができます。

Grape Professional に同梱されているサンプルファイルには、Paradox ファイルのものと Access ファイルのものがあります。

Grape を利用可能な状態にするには、まずこのデータベースファイルを指定する必要があります。

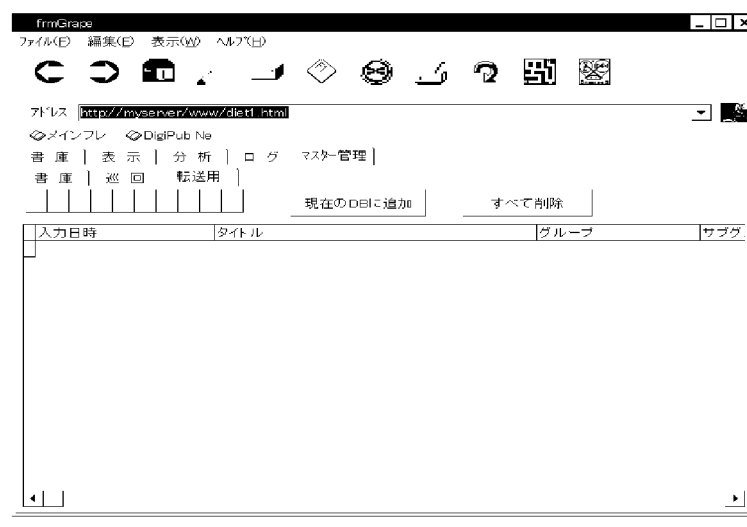


図 2.1:

2.2 メインメニューの選択

データベースファイルを開くには、メインメニューの [ファイル] から [データベースを開く] を選択し、samples ディレクトリ内の”access04.db”を指定します。



図 2.2: メインメニューの選択

2.3 ツールバー

2.3.1 概要

Grape の上段には、通常のブラウザと同様のツールバーがあります。ただし、Grape に固有なボタンもあります。以下のボタンは、**Grape 固有**のものです。

- 切替え 書庫ページと表示ページの切替えを行います。
- 登録 現在表示しているホームページを前回使用したキーワードで登録します。
- キーワード 現在表示しているホームページをキーワードを指定して登録します。
- 巡回 自動巡回を開始します。
- 記録 アクセスするホームページのアドレスすべてをログに記録するか否かのスイッチです。
- 転送箱 Grape は、その時々で書庫データベースを変更して使用することができます。このボタンをクリックすると現在利用しているデータベースとは別の一時データベースにアドレスなどが保存されます。そして他のデータベースを開いた時に、この一時データベースを利用して、一部の情報を転送することができます。

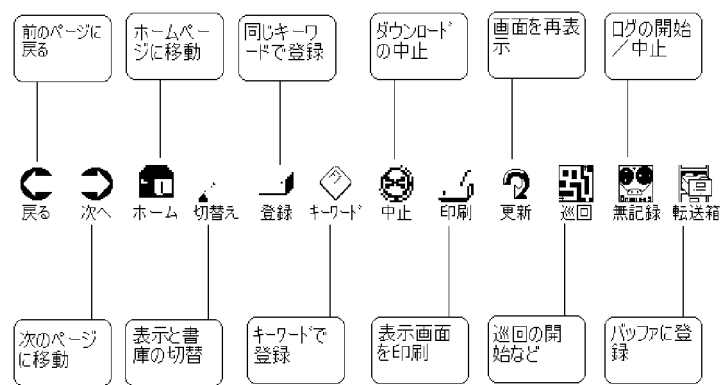


図 2.3: 概要

第 3 章

書庫

3.1 書庫

3.1.1 書庫の概要

データベースを選択すると、書庫の内容が表示されます。書庫とは、Microsoft Explorer における**お気に入り**のことであり、Netscape Navigator における**ブックマーク**と同様のものです。ただし、Grape の場合は、このデータを Paradox、Access、Interbase、Oracle、MSSQL、Sybase、Infomix といった**既存のデータベース**によって管理しているところが決定的に異なります。

したがって、こうしたデータはローカルに、あるいはネットワーク上に複数存在させることが可能になります。このことにより従来データベースというホームページを作成し情報を発信している側、あるいは発信者側と受信者側の間に介在する Yahoo などの検索サービスが中心でしたが、Grape は純粹に**受信者側**にインテリジェントなデータベースを作成することを可能にするものです。

さて、書庫についてですが、Grape の書庫は登録された段階ですぐに分類整理されます。Grape では、

- 日付時間順
- タイトル順
- 目的別
- グループ別
- アクセス数順
- アドレス順

という6つの観点から分類され、それぞれ一覧が表示されます。各一覧を表示する方法は、上段のタブをクリックし、個々のページを表示することにより行います。

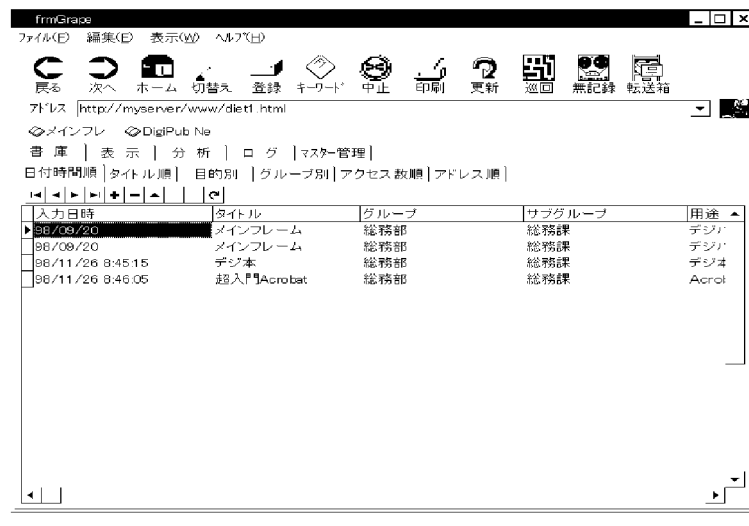


図 3.1: 書庫の概要

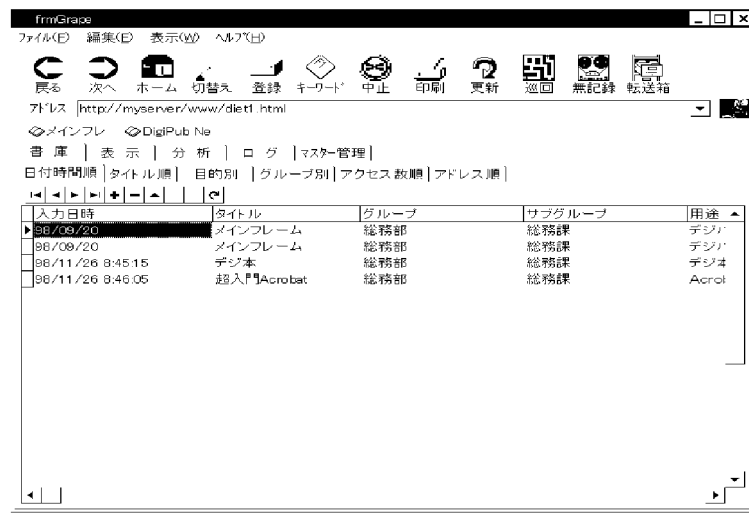


図 3.2: 日付時間順

日付時間順

タイトル順

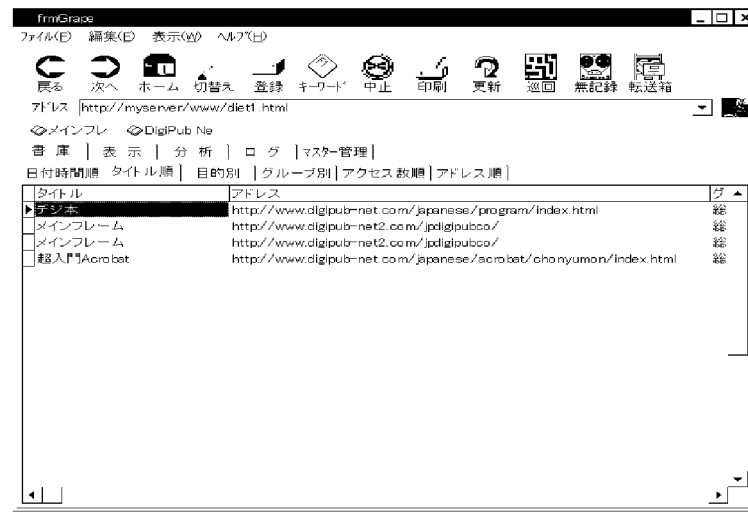


図 3.3: タイトル順

目的別

グループ別

アクセス数順

アドレス順



図 3.4: 目的別



図 3.5: グループ別

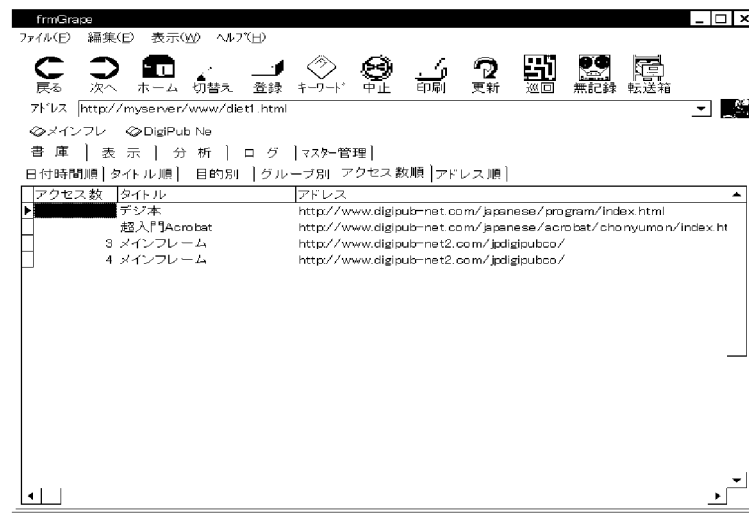


図 3.6: アクセス数順

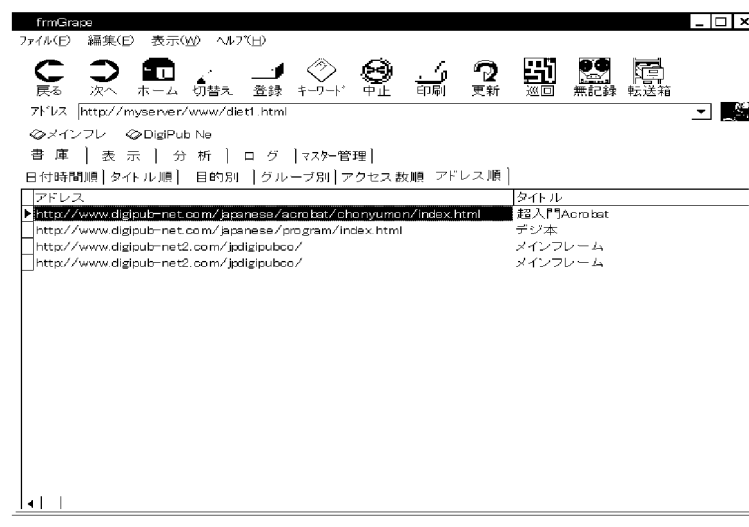


図 3.7: アドレス順

第 4 章

表示

4.1 表示

4.1.1 概要

それでは次にブラウジングの方法について説明します。サンプルデータベースには、すでいくつかの**お気に入り**サイトが登録されていますので、それを例にして解説します。

書庫から選択

まず、[書庫]の中の一つのページを開きます。ここでは[目的別]ページを開きます。すると一覧中の用途列の中に「Acrobat」と表示されている行が見つかります。これは、このサイトが Acrobat の関連の情報源として利用できるサイト(ホームページ)であることを示しています。

そこでこの行のどこかをクリックして選択し、さらにダブルクリックします。すると自動的にブラウザが起動し、そのホームページが表示されます。



図 4.1: 書庫から選択

ホームページを表示

ブラウザが起動すると自動的に、[書庫] のページから [表示] のページに移行します。

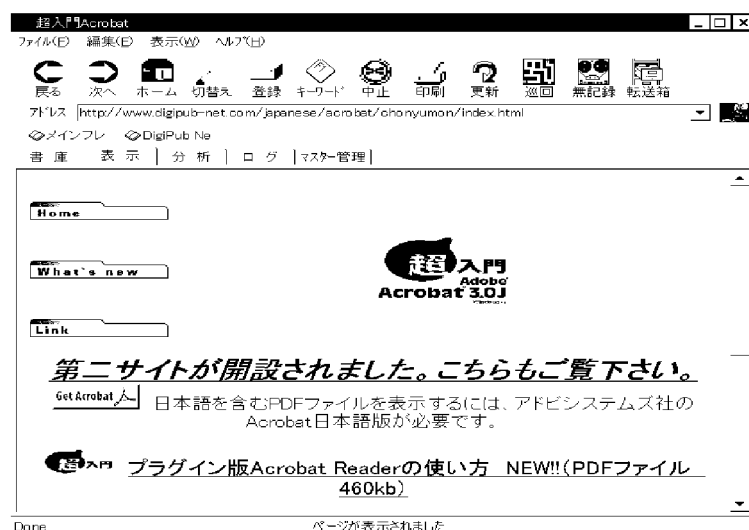


図 4.2: ホームページを表示

書庫へ切り替え

この [表示] ページから、[書庫] ページへ戻るには、上段の [切替え] ボタンをクリックします。

アクセス数順から選択

今度は、[書庫] ページの中の [アクセス数順] ページから選択してみましょう。一覧では、左端列にアクセス数が表示されています。ここでは一番アクセス数が多い行をクリックして選択してから、さらにダブルクリックしてみます。

アクセス数順から選択して表示

同様に [表示] ページに移行し、目的のホームページが表示されます。



図 4.3: 書庫へ切り替え

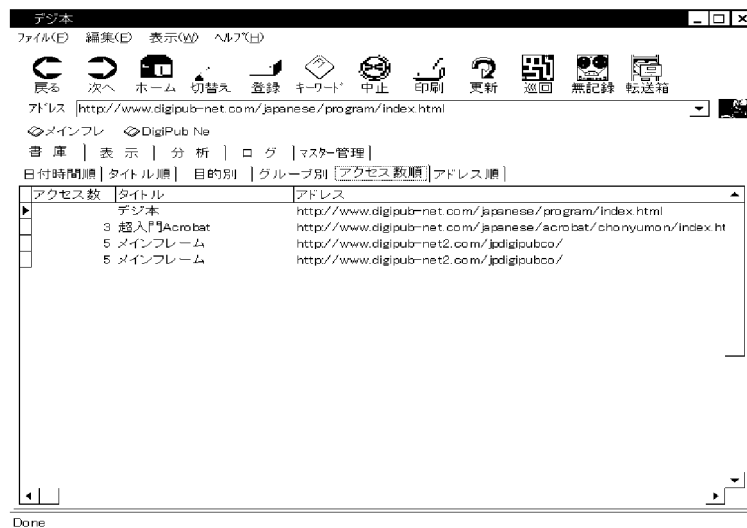


図 4.4: アクセス数順から選択

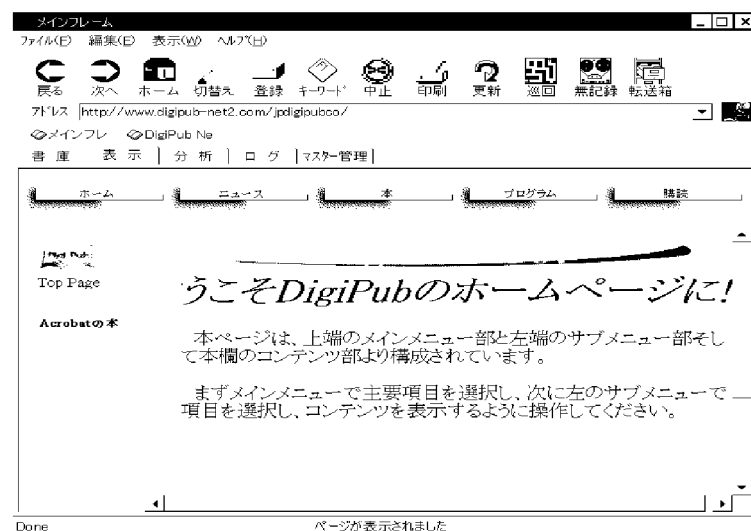


図 4.5: アクセス数順から選択して表示

第 5 章

分析

5.1 分析

5.1.1 概要

Grapeは、「お気に入り」ホームページを分類整理することができるだけでなく、登録したホームページへのアクセス状況を分析し、三次元の**グラフ**でビジュアルに表示することができます。

現在バージョンのGrapeでは、以下の4つの観点から分析が可能になっています。

- 頻度
- 曜日別アクセス割合
- 日付別アクセス時間
- ユーザ別アクセス数

頻度分析

登録されたホームページ別にアクセス数がグラフで表示されます。ここで注意していただきたいのは、ここで表示されるものは、登録されたホームページについてのみの頻度分析であるという点です。ブラウジングしたホームページすべてについて頻度分析したものではありません。

登録されたホームページが8以上ある場合には、複数ページに表示されます。前後のページに移動するには、上段の「前ページ」「次ページ」ボタンをクリックします。

曜日別アクセス

「分析」ページの中にある「曜日別アクセス数」タブをクリックすると、曜日別のアクセス状況が円グラフで表示されます。

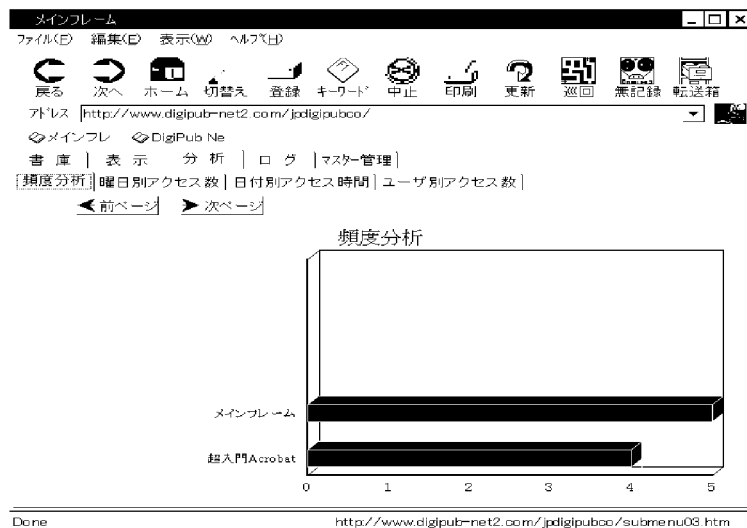


図 5.1: 頻度分析

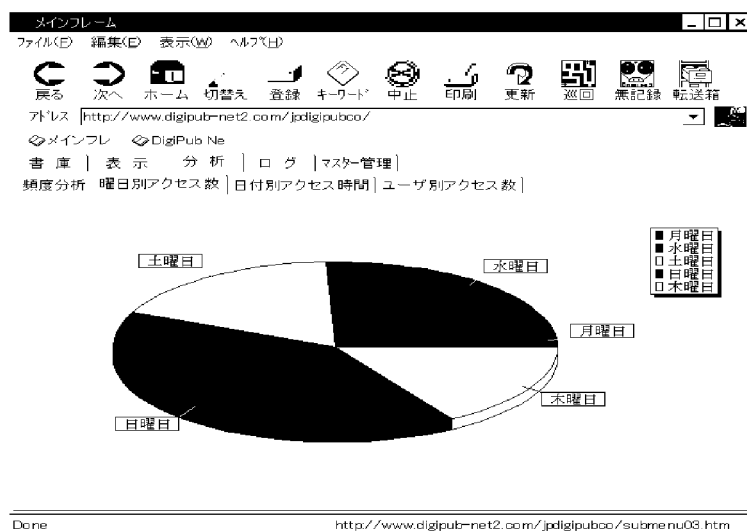


図 5.2: 曜日別アクセス

日付別アクセス時間

[分析] ページの中にある [日付別アクセス時間] タブをクリックすると、日付別のアクセス時間が横棒グラフで表示されます。

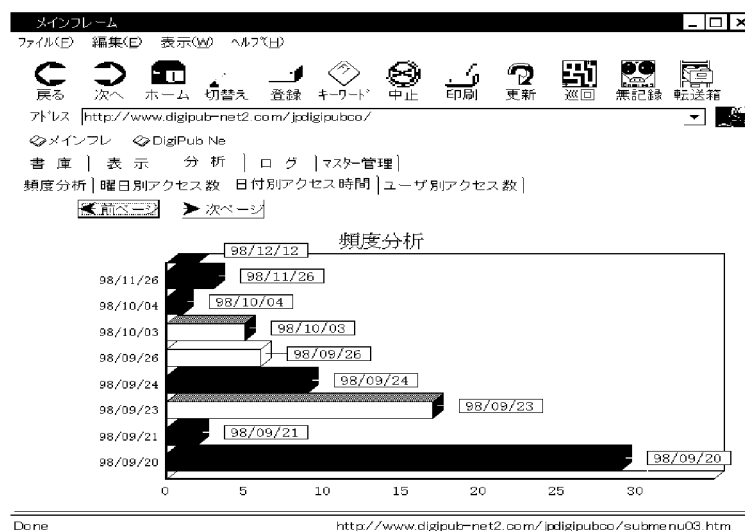


図 5.3: 日付別アクセス時間

ユーザ別アクセス数

[分析] ページの中にある [ユーザ別アクセス数] タブをクリックすると、ユーザ別のアクセス数が横棒グラフで表示されます。

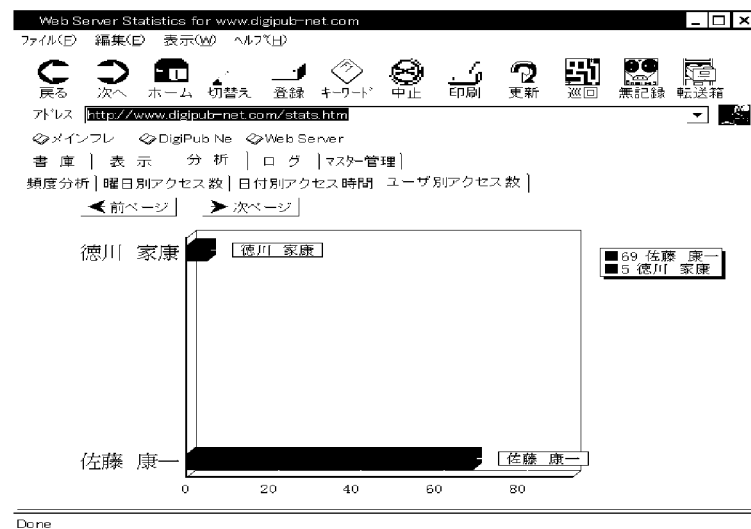


図 5.4: ユーザ別アクセス数

第 6 章

ログ

6.1 ログ

6.1.1 概要

Grapeは、接続ごとに記録を残すことができます。したがって、登録していないホームページであっても、以前アクセスしたホームページであれば、その記録（ログ）からそのアクセス先を探し出すこともできます。ただし、このログファイルは、すべてのアクセスを記録してしまうと、膨大になってしまいますので、Grapeではログをとるか否かを、**スイッチ**で切り替えられるようになっています¹。

上段のアイコンのテープレコーダ・マーク（記録／無記録）をクリックすると、この機能のオン／オフが切り替わります。起動時は、オフの状態になっています。



図 6.1: 概要

¹なお、このログについてはプライバシーを考慮し、登録はローカルデータベースに対してのみ行われます。すなわち、自分で使用しているマシンのデータベースに登録されるのみで、サーバー側には登録されません

ログのオン・オフ

上段のアイコンのテープレコーダ・マークをクリックすると、この機能のオン／オフが切り替わります。起動時は、オフの状態になっています。



図 6.2: ログのオン・オフ

ログリストからのアクセス

ログをオンの状態にした場合には、次に起動した時点でそのアクセス先を一覧することができます。もちろんそのリストからアクセスしたいホームページの行をダブルクリックすれば、そのホームページを表示することもできます。

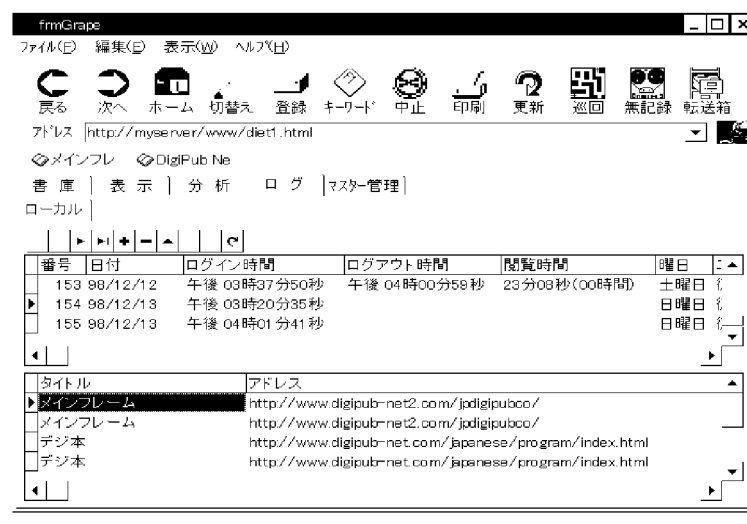


図 6.3: ログリストからのアクセス

第 7 章

マスター管理

7.1 マスター管理

7.1.1 概要

マスター管理とは、Grape で利用しているデータベース・ファイルの管理を意味します。Grape で使用しているデータベースは、主として以下の3種類です。

- 書庫データベース
- 巡回データベース
- ログデータベース
- 転送データベース

このうち、ログデータベースについては、[ログ] ページで直接管理していますので、[マスター管理] ページで管理しているものは、それ以外の3種類のデータベースということになります。



図 7.1: 概要

書庫データベース

書庫は、すでにふれたように「お気に入り」のホームページの情報を格納したデータベースです。この [マスター管理] ページでは、すでに登録されたホームページデータを修正、削除し、さらに新しいホームページ情報を登録することができます。

上段のボタンは、左の4ボタンが移動用のもので、それから挿入 [+], 削除 [-], 編集 [▲], 登録、取り消し、更新の意味を持っています。



図 7.2: 書庫

巡回データベース

巡回データベースは、毎日固定的に参照するホームページ、それを表示する時間が格納されているデータベースです。これは、上段の巡回ボタンをクリックし、自動巡回を開始したときに参照されるものです。自動巡回をするためには、ここに予めホームページ・アドレス、表示時間を登録しておく必要があります。

転送用データベース

転送用データベースは、複数データベース間でデータを転送するためのバッファの役割を持つデータベースです。例えば、普段は自分用のローカルデータベース

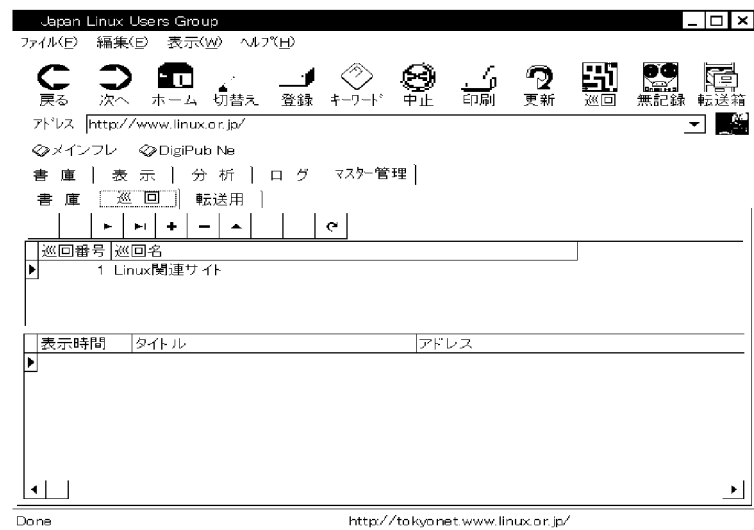


図 7.3: 巡回

を使用してブラウズしているとします。そのときに、自分個人のみならず、組織やグループ全体にとっても有用なホームページが見つかったとします。その場合、Grape ではその登録情報を一時的なデータベースに一旦登録し、次に特定のグループや組織のデータベースを開いて一括してその情報を登録することができます。これにより、今までブラウザ単位でのバラバラな情報収集が有機的に統合され、その収集力が飛躍的に高まります。

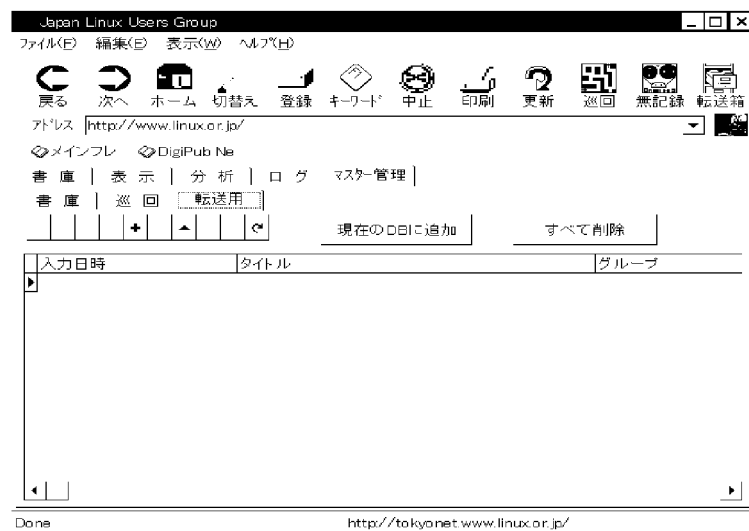


図 7.4: 転送用

第 8 章

補足 (*Access 9 7* を使用する場合)

8.1 Access97用の設定方法

Grapeに付属しているAccess用ファイルをAccess95からバージョンアップしたAccess97でないAccess97で使用するためには、GrapeとともにインストールされるInprise社のデータベース・エンジン管理ソフト（**BDE Administrator**）により、設定をし直す必要があります。またもともとBDE Administratorを使用している場合で、その設定がAccess97専用のドライバを使用している場合にも、同様の手続きが必要になります。以下にその方法を説明します。なお、BDE Administratorの詳しい利用法については、[?, pp.2-21]または[?, pp.185-199]をご覧ください。なお、BDE Administratorの詳しい利用法については、[?, pp.2-21]または[?, pp.185-199]をご覧ください。なお、BDE Administratorの詳しい利用法については、[?, pp.2-21]または[?, pp.185-199]をご覧ください。なお、BDE Administratorの詳しい利用法については、[?, pp.2-21]または[?, pp.185-199]をご覧ください。

8.1.1 BDEの起動

まず、コントロールパネルの中にある[BDE Administrator]をダブルクリックし、BDE Administrator(BDE管理プログラム)を起動します。



図 8.1: BDE の起動

8.1.2 ドライバの選択

BDE Administrator が起動されると、左側に [データベース] と [環境設定] と表示されるので、[環境設定] タブをクリックします。すると [Drivers] と [System] が表示されるので、この [Drivers] をクリックし、さらにその下に表示される [Native] をクリックします。



図 8.2: ドライバの選択

8.1.3 Native ドライバの選択

[Native] を選択すると、その下に、

- PARADOX
- DBASE
- MSACCESS
- INTRBASE

というように表示されるので、ここで [MSACCESS] をダブルクリックします。

BDE Administrator が起動されると、左側に [データベース] と [環境設定] と表示されるので、[環境設定] タブをクリックします。すると [Drivers] と [System] が

表示されるので、この [Drivers] をクリックし、さらにその下に表示される [Native] をクリックします。

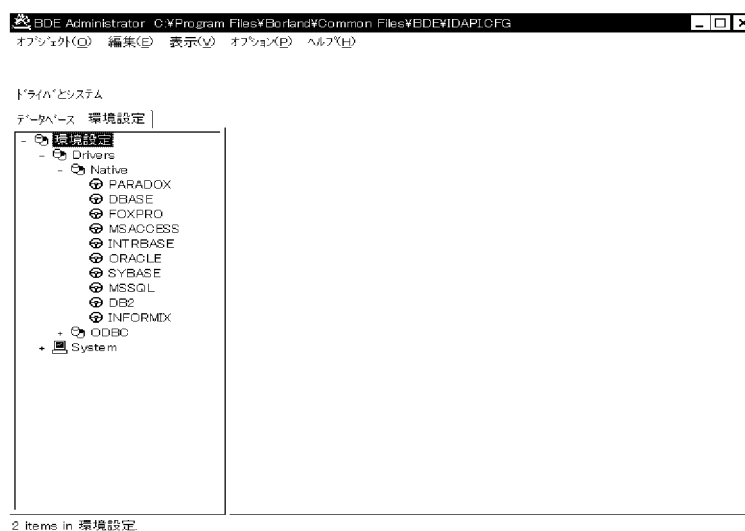


図 8.3: Native ドライバの選択

8.1.4 MSACCESS ドライバの選択

右側のペインにパラメータの一覧が表示されるので、この中の [DLL32] の項目のところをクリックします。するとその行の右側に [▼] が表示されるので、そこをクリックし、ドライバのリストを表示し、その中から [IDDA3532.DLL] を選択します。

これで設定が終わりです。左上の青い更新用アイコン (矢印) をクリックし、この変更を登録します。



図 8.4: MSACCESS ドライバの選択

第 9 章

その他

9.1 その他

9.1.1 注意事項

本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

本書の内容に関しては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなどがございましたら、usupport@allnet.ne.jp まで電子メールにてお送り下さい。

本ソフトを運用した結果の影響につきましては、前項にもかかわらず責任を負いかねますのでご了承下さい。

9.1.2 更新履歴

1998年

9.10

- Grape β バージョンを開発

11. 25

- Grape バージョン 0.9 を開発

12.13

- Grape バージョン 0.9 をインターネットに公開

1999年

11.11

- Grape Universal バージョン 1. 0 を開発。以下の機能が追加された。

- データベースのエリアス（別名）選択が可能になった。
- メニュー項目が 10 カ国語対応になった¹。
- 利用者のレベル（大人、小学生など）を設定することが可能になった。これにより、メニューを小学生低学年向けに〔ひらがな〕表示することも可能になった。
- ソース表示が可能になった。
- Grape で表示されるページの文字コードを選択できるようになった。

¹但し、一部対応していないものもあります

9.2 Grapeシリーズのご紹介

Grape Universalは、フリーソフトです。したがって、コピーは自由にできます²。但し、Grape Universalは、Inprise社のデータベース・エンジン（**BDE**）を利用しているので、インストールを行う場合には、Grape Universalのインストーラ（Install Shield）を利用してください。

Grape Universalには、Paradox、Microsoft Access97のドライバは組み込まれています。したがって、Grape Universalのみで、これらのデータベース形式のGrapeデータベースを利用することができます。しかし、Oracle、Sybase、Interbase、MSSQL、Infomixなどのデータベースを利用する場合には、ユーザのシステムにこれらデータベース用のドライバ（SQLLink）がインストールされている必要があります。またAccess用のGrapeデータベースをこれらのデータベース用に変換する作業も必要になります。

これらのデータベースを利用されたい方は、Grape ProfessionalまたはGrape Enterpriseをお求めください。

名称	概要	価格
Grape Universal	本ソフト	無償
Grape Professional	各種のデータベース用のドライバ データベース変換ツールを含む。 個人単位の登録	3,000円
Grape Enterprise	法人（学校など教育機関を含む） 単位の登録。	10,000円
Grape テクニカルマニュアル	Grapeのデータベースの構造を紹介	500円

²但し、著作権は放棄していません。

9.3 既知の問題

Grape Universal は、Grape バージョン 0.9 に比べ、大幅に機能がアップしましたが、以下の問題があることが判明しています。

- Grape Universal を終了すると、不適切なメモリを参照したとのエラーメッセージがたまに表示される場合がある。これは、webbrowser という ActiveX が終了処理をしている間に、プログラム全体が終了してしまうことによるものと思われます。現在終了のタイミングを調整するための改善が図られています。

索引

- Access, 28
- Access97, 62
- BDE Administrator, 62
- BDE の起動, 62
- Grape Enterprise, 69
- Grape Professional, 69
- Grape Universal, 69
- Grape シリーズ, 69
- MSACCESS ドライバの選択, 64
- Native ドライバの選択, 63
- Oracle, 28
- Paradox, 28
- アクセス数順, 36
- アドレス順, 36
- エリアス, 14
- キーワード, 30
- 既知の問題, 70
- 切替え, 30
- 記録, 30
- グループ別, 36
- 更新履歴, 68
- 巡回, 30
- 巡回データベース, 57
- 初期画面, 28
- 書庫, 34
- 書庫データベース, 57
- タイトル順, 36
- 注意事項, 68
- 著作権, 12
- ツールバー, 30
- 転送箱, 30
- 転送用データベース, 57
- 動作環境, 8
- 登録, 30
- ドライバの選択, 63
- 日付時間順, 36
- 日付別アクセス時間, 48
- 表示, 40
- 頻度分析, 46
- 分析, 46
- マスター管理, 56
- 目的別, 36
- ユーザ別アクセス数, 48
- 曜日別アクセス, 46

- ログ, 52
- ログのオンオフ, 53
- ログリストからのアクセス, 53

関連図書